

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270604152		
法人名	有限会社グループホームせいゆう荘		
事業所名	有限会社グループホームせいゆう荘	1号棟	
所在地	長崎県五島市上崎山町430番地1		
自己評価作成日	令和5年10月27日	評価結果 市町村受理日	2023年 12月 13日

※事業所の基本情報: [Ratu](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topiievosyo_index=true)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topiievosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年 11月 7日	評価確定日	2023年 11月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設は、崎山地区の離れにあり、施設の中から海や山を一望出来る恵まれた環境にあります。利用者の食事は、地元で採れた米・野菜を中心に、職員が手作りしています。「見えない障害に対する見えないケア」を大切にし、目に見えない、口にさせない要望を押し量りながら、利用者が少しでも気持ちよく、穏やかに生活出来るよう介護を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームせいゆう荘”は開設から22年目を迎えており、「高齢者が地元（五島市）で生活できる場所を作りたい」と言う代表（施設長）の思いを大切にされている。入居された方々は「食事が美味しい」「花がきれい」「海がきれい」「山がきれい」などと言って下さり、自然豊かな環境で過ごされている。ホームから海を眺めることができ、ホーム周辺の散歩を楽しまれる方もおられ、畑の野菜の水やりを一緒にされている。庭先のツツを採り、ご利用者がツツの皮むきをして下さり、職員の自宅の庭で収穫した柿で干し柿作りを楽しまれている。管理者・介護支援専門員（看護師）・主任等を中心に職員の結束は年々強くなっており、2つのユニットそれぞれの個性も大切にしながら、ご利用者の笑顔を引き出し、穏やかな生活ができるように努めている。2023年度は地域の方がチャンココを打ちに来られ、炎太鼓を中庭で披露してくださいました。家族や近所のお友達が散歩の途中で立ち寄ってくださり、玄関先でゆっくり会話をしてもらっている。家族と美容室に行かれたり、お盆には自宅で食事会や墓参りに行かれたりする方もおられる。今後も代表（施設長）の思いである、職員が助けて、より良いケアに繋がるよう努めているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	○	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている	個々に合わせたケアを行い、その結果、理念に繋がる様に努めている。	理念に「必要とされることの喜びと、感謝の気持ちで介護をおこないます」とあり、ご利用者の役割作り、助け合いを大切にされている。“お互いに癒し癒されその人らしく穏やかに”を目標にしており、「お互いに」の中には「地域の方も一緒に」と言う視点も含まれている。ご利用者の生活歴を把握し、「その人らしく」過ごせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事には可能な限り参加し、協力していたが、コロナ禍の影響で外部との交流が少なくなっている。	2023年度は地域の方がチャンココを打ちに来られ、11月は炎上太鼓を中庭で披露して下さった。10月末は児童会がハロウィンの飾り（かぼちゃで作った顔）を持ってきて下さり、LEDを利用して灯りをともすことができた。夕焼けマラソンとトライアスロンの応援も楽しまれており、コロナ以前は保育園児等との交流も行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実績なし		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の書面会議にて情報や意見を求めている。	コロナ禍から書面会議を続けており、メンバーの方々に代表（施設長）が書類を持参し、個々に情報交換している。ホームの取り組みや外出行事、コロナ対策、避難訓練の報告とともに、ホームの課題も報告し、参加者からアドバイスを頂いている。今後は更に「お顔が見える方法」を検討予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類の届出や各種の相談等、指導を頂いている。	代表（施設長）・事務職員、介護支援専門員等が市役所を訪問し、ご利用者や家族への向き合い方を相談するとともに、書類等の相談や人員体制の報告、ホーム内で起きた事案等の相談をしている。市の担当者からアドバイスを頂き、日々のケアに活かすように努めている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望他不穏状態にある時は、外を散歩したり話を傾聴し拘束しないように取り組んでいる。	「虐待・身体拘束防止委員会」として、身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会を開催している。日々のケアを振り返り、身体拘束3要件（切迫性・非代替性・一時性）の再確認をしている。各棟のチェックリストで振り返りをしており、今後も詳細に記録していく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の主任会議やケア会議時に虐待防止の認識の共有を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明し、その他疑問等があればその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見要望があれば、その都度主任会議等を開き、改善策などを協議している。	面会や電話の際に日々の暮らしぶりを家族に報告している。担当職員が毎月のお便りで状況報告し、写真や金銭出納帳のコピーを郵送し、遠方の家族には手紙を書いている。コロナ禍、面会ができない時期は電話等で情報交換を行ってきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、主任会議・ケア会議時に意見等を聞いている。	2023年7月から新体制になっている。代表が新施設長に就任し、管理者、主任、介護支援専門員（看護師）等が中心になり、職員同士の結束を強めてこられた。代表も日々ホームで過ごされ、職員の頑張りを高く評価している。職員の意見やアイデアを伝えやすい環境を作り、主任会議や委員会等も開催している。職員同士の助け合いもあり、職員個々の役割分担も続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が働き甲斐のある職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンラインでの研修が増えているが参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の実績なし		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面談や情報収集に努め、必要としているサービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望まれるサービスを提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活でできること、出来ないことの見極めを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも解除するのではなく、その方の能力に応じた介護という意味でできることは本人に行ってもらおう。相談に応じ共に解決し、介護する側もされる側もお互いに必要としあい、癒されている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を毎月お便りで伝えたり、家族との交流ができるように支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい場所や会いたい人等があれば、家族と連携して要望をかなえるようにしている。	ご利用者の生活歴等を把握し、通院時に馴染みの場所（自宅周辺）をドライブしている。家族と墓参りに行かれる方や自宅に行かれる方もおられる。初詣は車いすの方も参拝しやすい八幡神社・住吉神社等にお連れしている。	今後更にコロナ・インフルエンザ等の感染が落ち着き次第、ご利用者が希望する方々にお会いできる機会を増やし、行きたい所にお連れできる支援をしていきたいと考えている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い出来る事を手伝いながら関係を深めてもらう。時には職員がクッションとなり見守り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	挨拶、声掛けを通じ現状を把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意志で入居される方は少なく、いつまでも帰宅願望が強い方もおられるが、気分転換にドライブやゲーム、お手伝いを行っている。	団欒時や入浴時などに思いを把握するように努めている。ご本人の真の思いに寄り添い、ホームでできる支援（寄り添い）を続けている。意思疎通が難しい方は、表情や言動から思いを察するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に生活歴等を聞き、自宅で過ごしていたような生活環境になるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調変化や状態の変化は常に記録し、ケア会議時に全職員が情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議で意見を出し合い、個々の利用者者に合ったケアを統一出来るように努めている。	1号棟と2号棟で「フェースシート」「アセスメントシート」は異なる。日々の体調変化を丁寧に確認し、職員の意見を集約しながら、アセスメントを続けている。“できる事・できない事・ケアのポイント”を記載した3表（日課表）等も作成し、ケア会議で情報交換しており、健康管理やリハビリの視点も盛り込まれている。	①今後も両ユニットのアセスメントシートの良さを参考に、アセスメント内容の改良を行う予定である。 ②課題分析結果を総括し、介護計画に繋げるとともに、今後も家族との話し合いを続けていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と業務日誌で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に対応出来るよう、支援することを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	得意とする知識や経験を発揮出来る環境づくりを行い、少しでも役に立っているという満足感を感じてもらおう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得のもとでかかりつけの病院を決め、かかりつけ医との関係を築く。	看護師や介護職員が受診同行しており、心配なことを医師に相談し、詳しく説明して下さっている。必要時に同席される家族もおられるが、同席できない家族には毎月のお便りや面会時に報告している。昼間の早期発見・早期対応を心がけており、24時間体制でホームの看護師に相談でき、必要時は駆けつけて下さり、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍しており、日々の気づきや変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の状況等を理解して頂き、本人の経過を電話で伝えてくれたり、退院時の調整も行ってくれる。また、家族にもその都度伝えている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で確認している。看取りに関しては行っていないので、施設でできる程度の説明のみ行っている。	入居時に「食事ができなくなった場合はホームでの生活が難しく、看取りケアを行っていない」事を伝えている。「最期は病院で」「できるだけホームで」等の願いも聞かれ、ホームでできる事を説明している。看護師が勤務し、24時間の相談ができ、体調変化時は病院に電話し、主治医からの指示を頂いている。病状に応じて、医療機関への入院時期等も検討しており、転院ギリギリまで食事摂取を含めて誠心誠意のケアを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の消防団と災害時の避難については話しているが、訓練等は実施していない。火災・防火については、自己チェックを毎日実施している。	年2回（3月・10月）、ご利用者・防災設備業者と昼夜想定訓練をしている。夜間想定の際は夜勤者が主になり訓練している。ホーム裏に畑があり、ハザードマップ上、水害による土砂が流れ込む心配があり、気象情報を事前に確認し、早めの対応を行うようにしている。長期保存できる食料を3日分備蓄し、各居室に懐中電灯を準備している。	①厚労省のBCP（事業継続計画）動画を勉強しており、事業継続計画を完成させるとともに、災害時の必要物品も検討する予定である。 ②災害時は地域の総代から消防分団長に連絡が行くようになっており、今後も消防分団長に挨拶を行う予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉遣いは常に意識している。	ご利用者への声かけの大きさや言葉遣い等、気配りしている。気になるときは管理者、主任、ケアマネから職員に伝えている。人生の先輩として敬う気持ちで、五島弁も使いながら声かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方が少ない中で、なるべく選択しやすい言葉かけを心掛けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で優先してしまう事があるが、出来るだけ利用者の希望に沿うように支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が好みそうな洋服を家族に持って来てもらい、着替えの時は利用者を選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやお盆拭きなど、出来る利用者にはしてもらうように努めている。	畑の野菜も利用し、3食美味しい料理が作られている。庭先のツワを採り、ご利用者がツワの皮むきをして下さり、じゃが芋の皮むきや大根おろし、モヤシの根切りなどもして下さる。誕生日や行事の時は好きな物（にぎり寿司や天婦羅、茶碗蒸しなど）を楽しまれている。嚥下状況に応じて、きざみ食・ミキサー食等を準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態に合わせて、食べやすい硬さや大きさ、量をそれぞれに変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けして対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、声掛けしトイレ誘導に努めている。	排泄感覚に応じて事前誘導している。居室ベッドの足元に利用者の動きを感知するセンサーを設置し、職員がすぐに駆けつけており、排泄の失敗が軽減されている。布の下着を使用する方もおられ、パッドの必要性や大きさの選定等を個別に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の服用と併用して、飲み物や食べ物で調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合による事が多い。	入浴好きな方が多く、ご利用者の体調や気分を見ながら入浴の声かけをしている。湯船に浸かれる方も複数おられ、湯加減などを確認しながら職員との会話を楽しまれている。ご自分でできる所（洗髪も含め）は洗って頂き、冬場は身体を冷やさないようにシャワーで掛け湯をしている。陰部にはタオルを掛けて羞恥心に配慮している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を清潔にするよう努めたり、室温の調整等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は施設職員が行い、用法・容量は医師の指示に基づき服用させている。薬によっては、長期間服用して状態の報告を行い、医師の指示の基調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の特技をいかし、声掛けしながら手伝いや風船バレー、歌を唄うなど、職員も一緒になって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染で自由な外出が制限されたが、家族の協力で墓参り等いく事が出来た。	ホーム周辺の散歩を楽しまれる方もおられ、車いす対応車でドライブや花見（桜、向日葵など）、あぶんぜ公園、香珠子海水浴場、魚津ヶ崎公園、芝公園等にお連れしている。家族と一緒に美容院、墓参り、自宅に行かれる方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は施設で行っている。必要な物と本人の希望する物は職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと要望があれば、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを職員と利用者が協力して行っている。	老人会の方から花の苗をいただき、ご利用者ごとのプランターで花を育てている。玄関を入るとリビングがあり、畳も敷かれ、台所も隣接している。料理の音や香りを感じながら過ごされており、洗濯物たたみ、お盆拭き、モップかけをして下さり、廊下から海を眺める方もおられる。温湿度調整を行い、換気もしている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに寝そべったり、椅子に座ったりしながら利用者同士で過ごしている。一人になりたい人は、自室で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を出来るだけ置くようにしているが、安全面を考慮しているため、置ける物が限られている。	和室と洋室があり、家族の写真や愛用のたんすを持ち込まれ、居室からキンカンの実や野菜が育つ畑を眺める事ができる。全居室にベッドが置かれており、身体機能に合わせて低反発マットを使用している。居室で洗濯物をたたみ、ご自分で筆筒にしまう方もおられ、掃除機もかけてくださる。週1回は寝具を洗濯し、乾燥（天日干し）や室温調整等も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれに合った居室環境を心掛けている。共用空間でも、見守りの中で声掛け・誘導等しながら自立した生活が出来るように心掛けている。		